

令和4年6月29日

職員玄関で進路相談

「校長先生ですよね？」17時頃、グラウンドの部活見学から帰ってくると3年生の女子に玄関近くで呼び止められた。

「進路で困っているんです。」話を聞くと、進学先について周囲となかなか意見が合わないということらしい。

本人は大学より専門学校に興味があるという。大学に進学することを遠回りに感じていた。

そこで、高校に進学した時のことなどを思い出してもらいながら職業観などの話を一緒にした。まだ多くの職業に接していないこと、たとえ、就職するために何年か遅れても、遠回りではなく、教養を身につけるなど一人の人間として自分を磨く時期と考えることもできる、など。

すると、「すっきりしました。ありがとうございます。」と、にこにこしながら教室へ向かっていった。

急な変化にこちらがびっくりした。良い話ができたとは思っていない。たぶん、自分の中に正解を持っていたのに、うまく整理ができていなかっただけだろう。

弾むような後ろ姿を見送り、ほほえまずにはいられなかった。